

# 県庁芝生広場（仮称）

## 構内道路について



### 車道を車道らしく見せない工夫をする

- ・人間を大事にしているように見える景観は「良い景観」である。
- ・その点から、車道舗装の材料は歩道舗装よりも重要になる。歩道部のインターロックよりも車道部とデッキ周辺に集中投資してグレードを上げる。
- ・少なくとも、構内道路の西側入口からデッキの前までは車道舗装を変えると良い

### ボラードに対する工夫

- ・歩道をマウンドにしてボラードを作らない（横断ハンプを設置する）ことも考える。また、車道側にボラードを置いて、車に対する緊張感を与えることも考える。
- ・太く黒いボラードは不自然なため、歩道舗装に馴染む形態と色彩を考える。
- ・屋台村スペースはスロープのついたマウンドにすることなどでボラードを作らないようにする。

## オープンカフェについて



### デッキ端部の処理を工夫する

- ・デッキ端部の仕舞いは非常に重要である。60cmの高さは壁になるので、堅く仕切られないようなデザイン（道路と沿道の一体化）を考える。
- ・デッキ端の向きについても、何が視対象であるのかを考えて設計する。

## 動線計画・造成計画について



### 動線計画の必要性

- ・動線となる部分の芝生は必ず禿げるので、園路とした方が良い。県庁東側出入口から木かげ広場を通過して第2庁舎へ向かう動線への対応が必要である。
- ・これまで以上に市民の通り道となることにも配慮する。築山が動線を邪魔しないようにする。

### 中央通路と周辺との連続性

- ・中央の通路を広くした上で園路と連絡し、東西の広場との連続性を高める。
- ・渡り廊下からの眺望がよいので、直接降りられる螺旋階段があった方がよい。

## 芝生広場の造成の考え方

- ・平らな芝生は濡れるため、あまり使われない。平らな部分はもう少し人工的な部分を増やした方が使い勝手がよい。
- ・芝生ゾーンと歩道（外周及び中央）を明確に分けない方がよい。
- ・築山の形状はもっと複雑にする、模型やシュミレーションにより検討すること。
- ・広場の隅角部の平地はデットスペースにならないようにすること。

## 植栽について

### 主要な視点からの眺望に配慮する

- ・シンボルツリーを適度な大きさで見せるための工夫を考える。特にデッキから何を見せるのかを考えて植栽を配置すること。
- ・植栽は築山の稜線を邪魔しないように、裏側に配置すること。

### 親しみある樹林の創造と保存

- ・樹木は四季折々の花や葉が楽しめるようにすると良い。
- ・衛生会館側のトチノキもできるだけ保存するようにする。

## ベンチについて



### 数多くのベンチを設ける、自己領域を形成する

- ・ベンチは人間に対するもてなしの表現であり、数多く設置した方がよい。
- ・ポツンと置くのは駄目。車道へのはみ出し、ポケットパーク、ベンチの置き方、舗装の変化、植え込み等によって自己領域を形成する。

